

- 1月 ◆東京農工大学大学院農学研究院と廃校などを活用して、地域が抱える農業の課題解決などに取り組む地域連携協定を締結
◆御代田小地域子ども教室開所
- 2月 ◆八山田こども公園と大安場史跡公園内の「子どもの遊び場」がオープン
◆本市の特産である鯉を通じた海外交流の一環として、企業と市職員で構成する視察団がハンガリーを訪問
◆三井住友海上保険(株)及びファーストメディア(株)とスマートフォンを活用した「避難場所等情報提供に関する協定」を締結
◆「まちづくり基本指針」を市民協働で策定するため、地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」を開催
◆開成山野球場のネーミングライツ・スポンサーが(株)ヨークベニマルに決定し運営開始(期間:平成29年2月1日~令和4年3月31日)
◆「ダイワロイネットホテル郡山駅前」を核とした複合商業施設がオープン
- 3月 ◆市内各地に整備を進めてきた子どもの遊び場の4か所目となるカルチャーパーク内「子どもの遊び場」がオープン
◆石油化学製品の販売などを行う日米礦油(株)、青果物や日用品などの配送を行う新日本物流(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
◆NPO法人空き家バンクと空き家の有効活用に関する協定を締結
◆医療福祉関係の15団体と災害時の福祉避難所に関する協定を締結
◆(株)恒和薬品と災害時の医薬品提供に関する協定を締結
◆人口減少や少子高齢化といった社会構造の変化に直面する中小規模企業や関係団などと相互に連携・協力できる仕組みづくりのための「郡山市中小企業及び小規模企業振興基本条例」が3月定例会で可決
◆バリアフリー化を図るため、郡山駅東口の出入り口エレベーター・エスカレーターを設置
◆一般住宅等の除染完了
- 4月 ◆市内で88年ぶりに設置された新駅「郡山富田駅」開業
◆郡山富田駅の開業に合わせて、カインズホーム富田店の駐車場を利用し、パークアンドライド実証実験を開始
◆本市の特産である鯉を通じた海外交流の一環としてパラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー大使が来郡
◆下水道部と水道局を統合した上下水道局を設置し水道料金などの徴収事務を包括して民間事業者へ委託するとともに上下水道局1階にお客様サービスセンターを開業、業務を開始
◆高倉小地域子ども教室開所
◆富久山公民館八山田分館の集会室を増築し八山田公民館としてオープン
◆NTTタウンページ(株)と、「防災タウンページ」を全世帯・事業所に配布する防災啓発協定を締結
- 5月 ◆一般住宅等からの除去土壌等の搬出を開始
◆(一社)こおりやま建設協会と災害時における応急対策業務の支援に関する協定を締結
- 6月 ◆県内初となる水素ステーションを市役所に設置
◆(一社)郡山市観光協会と観光振興及び地域活性化に関する包括連携協定を締結
◆「郡山市自殺対策基本条例」制定
- 7月 ◆県内で39年ぶりに全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が開催され、本市では卓球と柔道の2競技で熱戦を展開
◆全国高校小倉百人一首かたる選手権で安積黎明高校が初の日本一に
◆郡山しんきん開成山プールオープン
- 8月 ◆仮設トイレの販売・レンタルを行う日野興業(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
◆耐震改修工事が完了に伴い、中央図書館が再オープン
◆郡山しんきん開成山プールの利用者が1万人を突破
◆東海第二原子力発電所の事故に備え、日上市と本市を含む県内17市町村が避難協定を締結
◆日本大学工学部と「田んぼダム」の利活用による浸水被害低減を目指すための協定を締結
◆本市と県の視察団が、再生可能エネルギーや医療機器分野の産業集積が進むドイツのエッセン市を訪問
- 9月 ◆本市出身の作曲家で市フロンティア大使を務める湯浅譲二さんが郡山市名誉市民となる
◆農業用ため池の本格的な除染がスタート
- 10月 ◆全日本合唱コンクール全国大会(大阪市)の中学校部門混声で、郡山五中が6年連続6度目の金賞と全国3位相当の大阪市教育委員会教育長賞、郡山二中が15年連続15度目の金賞、同声で郡山五中が銅賞を受賞
◆NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール(東京都)で小学校の部初出場の朝日が丘小が銅賞、中学校の部で郡山二中が優良賞を受賞
◆郡山市障がい者基幹相談支援センターが郡山市社会福祉協議会にオープン
- 11月 ◆(株)デンソーとバレーボールによるスポーツ振興及び競技力向上などで相互連携を図る、ホームタウンパートナーに関する協定を締結
◆市フロンティア大使の遠藤純男さんが柔道部特別顧問を務める、センコーグループホールディングス(株)と東京2020オリンピックに関する事業を相互に協力するため、連携協定を締結
◆(株)スペースワンとドローンに係る連携協力に関する協力を締結
◆日本学校合奏コンクール全国大会グランドコンテスト高校の部で郡山商業高校が金賞及び2位相当の千葉県教育長賞、中学校の部で郡山二中・郡山五中が金賞、小学校の部で金透小が銀賞を受賞
◆道路の除染完了
- 12月 ◆ドイツ・エッセン市のトーマス・クーフェン市長らが郡山を訪れ、再生可能エネルギー分野と医療機器産業分野で連携・交流を進める都市間交流に関する覚書を締結
◆駐日ハンガリー大使に、ハンガリーの食べる国宝「マンガリツァ豚」の生体輸入に向けて協力を依頼する親書を提出
◆自動車部品の販売などを行う日産部品福島販売(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
◆受動喫煙による健康被害防止や、健康増進のため、市公共施設が敷地内禁煙に
◆ユニ・チャーム(株)と災害時に衛生用品の供給協力に関する協定を締結
◆(株)アポロガスと水素社会及び再生可能エネルギーの普及啓発の連携に関する協定を締結
◆コカ・コーラ・イーストジャパン(株)郡山支店と災害発生時における物資の調達や応急対応の迅速化、被災者支援の充実を図るための協定を締結
◆(株)エンルートM's(現:イームズロボティクス(株))とドローンなどの産業用ロボットの普及啓発や行政での活用を推進するための連携協定を締結
◆東北フリーブレイズが、全日本アイスホッケー選手権大会で悲願の初優勝

郡山富田駅(JR磐越西線)開業

2017年4月1日にJR磐越西線「郡山富田駅」が開業されました。県内で30年ぶり、市内で88年ぶりに設置された新駅で、これを機に近隣地域の活性化が期待されます。



『郡山富田駅』

郡山駅と喜久田駅の間に位置し、一日約1,000人の方が利用しています。

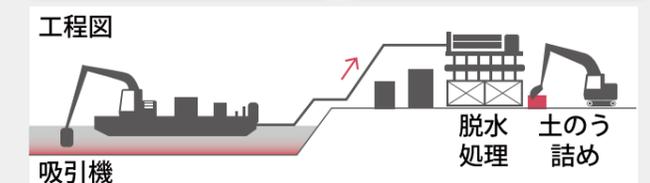
『安達太良山をイメージした駅舎』

中央図書館再オープン



耐震改修工事が完了し、8月に中央図書館が再開館しました。床やトイレなどの設備を新調したほか、インターネットでの音楽配信サービスを導入しました。

農業用ため池の本格除染



農業用ため池の本格的な除染が始まり、池ノ台地区にある荒池の除染作業を、関係者に公開しました。現場では、池底土壌等を汲みあげる吸引圧送船を浮かべ、管を通して脱水プラントで土壌の処理が行われました。

地球温暖化対策



『県内初!水素ステーション運用開始』

地球温暖化対策に期待できる水素を利活用するため、県内初となる水素ステーションを市役所内に設置、運用を開始しました。



水素を燃料とした燃料電池自動車を導入

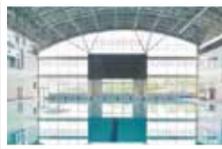


『電気自動車用急速充電器』

エネルギー効率や環境性能に優れた電気自動車などの普及促進のため、市役所本庁舎東側に電気自動車用急速充電器を設置しました。

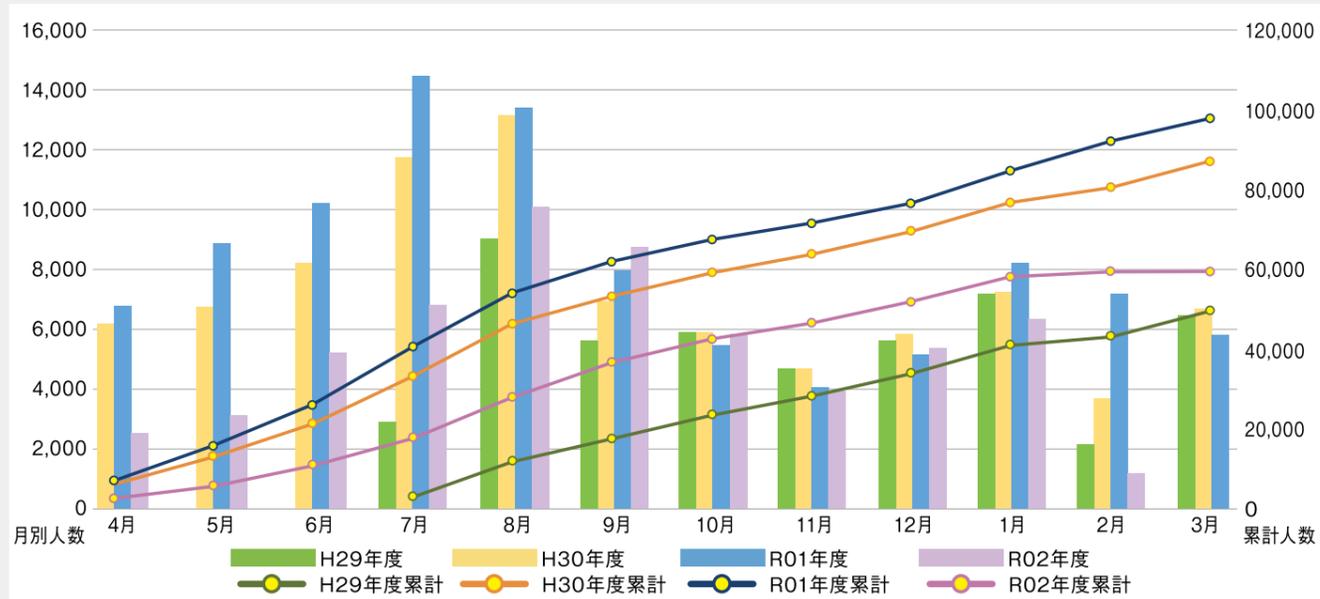
郡山しんきん 開成山プールオープン

震災により、運動の機会が少なくなった子どもたちの健康増進と競技力向上を図るため、2017年7月にオープンしました。以前は屋外にあった旧開成山水泳場が、1年中快適に利用できる屋内温水プールへと生まれ変わりました。太陽光・太陽熱・地中熱を導入し、太陽光で発電した電力を場内で使用するほか、太陽熱は場内のシャワーなど、地中熱は床暖房などにそれぞれ使用します。



『県内初の市営屋内50mプール』

郡山しんきん開成山プール利用者数



子育て支援がさらに充実



市内3か所で、子どもの遊び場の整備が完了しました。また、郡山版ネウボラ「ニコニコサポート」や、子育て支援アプリ「ニコニコサポート」の配信を開始するなど、子育て支援を一層強化しました。ニコニコサポート

『大安場史跡公園内 子どもの遊び場』

公園内に屋根付きの砂場やジャングルジムを設置。砂遊びをしながら、想像力や創造性を育むことができます。



『八山田子ども公園オープン』

公園内の高低差を利用したネットクライミングをはじめとした屋外遊具や芝生の公園など、いろいろな遊びが楽しめ、子どもたちの体力向上に最適です。



世界各国との交流



『駐日ハンガリー大使が来郡』

郡山市の特産である鯉を通じた海外交流の一環として、バラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー大使が郡山市を訪れました。バラノビチ大使は、同国の特産品であるマンガリツァ豚を提供する店舗を訪れたほか、鯉料理を味わうなど、郡山市の食文化について理解を深めています。今後も同国と連携し、農業分野を中心とした友好関係の構築を図ります。



『エッセン市と覚書締結』

ドイツ・エッセン市のトーマス・クーフェン市長らが郡山を訪れ、再生可能エネルギー分野と医療機器産業分野で連携・交流を進める、都市間協力に関する覚書を締結しました。



『オランダサッカー教室』

オランダプロリーグで活躍するファン・ウェルメスケルケン・際選手を講師に招き、市内の中学生50人が参加して、サッカー教室を開催しました。際選手の指導を受けた子どもたちは、真剣なまなざしで、必死にボールを追いかけていました。



『上原浩治選手野球教室』

2017年1月
市と連携協定を結ぶ東邦銀行が、カルチャーパークで上原浩治選手を招いた野球教室を開催しました。参加した子どもたちは、キャッチボールや投球フォームなど熱心に指導を受けました。

『憧れの選手に大興奮の子どもたち』



『自身の経験を語る上原選手』



『デンソーとホームタウンパートナー協定を締結』 / 2017年11月
国内最高峰バレーボールリーグ(Vリーグ)所属のバレー部をもつ(株)デンソーと、バレーボールによるスポーツ振興及び競技力向上などで相互連携を図る、ホームタウンパートナー協定を締結しました。



『エアリービーズの選手が市内の中学生を指導するバレーボール教室を開催』

What'sエアリービーズ?



(株)デンソーの女子バレーボールチームとして、1972年に創部。1986年に日本リーグ(現Vリーグ)昇格を果たす。

あの日の記憶 vol.7

震災からの10年の歩みについて寄せられた記憶をご紹介します

震災の記憶

(30代/女性)

東日本大震災当時、大学生で県外に居た私は、東北地方の津波の映像や、地元福島での原発事故の様子をテレビを通して知りました。

幸い、家族は全員無事でしたが、変わり果てた地元の映像をテレビで見るたび、悲しみと恐怖に包まれた事を覚えています。

震災から10年が経過し、東北、そして福島は沢山の方々に支えられて復興の道のりを歩んでいます。

震災は私たちの生活を大きく変化させましたが、同時に日本中、そして世界中からの温かい支援によって、人と人との繋がりを強固なものにしてくれたのではないかと思います。

普通が1番

(30代/女性)

普通のこと 普通の毎日 それがとても大切に幸せだった

10年前の普通には戻れないけれど 今の新しい普通を大切にしていきたい

至言は耳に^さ忤う

(30代/男性)

私の2009年大学卒論時のテーマが電力の固定価格買取制度による原発から再エネへの転換だった。原発安全神話を宣う政府や東電が反対意見に耳を傾けていれば防げた事故だった。現在のコロナ禍の政府の対応にもあてはまるのでは？

常に備えよ

(40代/男性)

地震による断水で、水、それに増して下水の大切さを思い知ることとなりました。現在は災害目的ではないものの発電機と清水、汚水タンクのある環境が確保できているので、幾分の備えとし、防災意識を頭の片隅に準備して生活するよう心がけております。

- ◆ 1月
 - ◆ 本市とNTTタウンページ(株)が共同で避難所や公衆電話の位置などを掲載した「防災タウンページ郡山市版」を発刊
 - ◆ 白岩小地域子ども教室開所
 - ◆ 郡山市管工事協同組合と災害発生時における上下水道施設応急対策の支援に関する協定を締結
 - ◆ ノボノルディスクファーマ(株)と糖尿病の予防や早期発見・治療、重症化予防などの取組に関する包括連携協定を締結
- ◆ 2月
 - ◆ 安全なまちづくりを進めている都市などを対象にしたセーフコミュニティ国際認証を県内で初めて取得
 - ◆ 日本弁理士会と特許や商標などの知的財産に関する普及啓発や人材育成に関する協定を締結
 - ◆ 郡山地域に立地する研究機関や、日本弁理士会などで構成する(仮称)郡山地域研究機関ネットワーク形成会議を開催
 - ◆ 本市と連携する大学など12の高等教育機関が一堂に会し、「産学連携のさらなる深化」と「高等教育機関のさらなる連携」の推進する学術連携推進会議を開催
- ◆ 3月
 - ◆ 橋小、行健中などの耐震化工事が終了、郡山市立小中学校の校舎・屋内運動場の耐震化率100%を達成
 - ◆ 本市に暮らす外国人に、さまざまな手続きや暮らしの情報を提供する生活ガイドブック「リビングガイドこおりやま」のウェブサイトを開設
 - ◆ キオスク端末(マルチコピー機)を設置する全国のイオンリテール(株)(市内では郡山フェスタ店)で住民票の写しなど各種証明書が取得可能に
 - ◆ 福島労働局との間で、人材確保や育成、就労困難者の支援など雇用対策を一体的に取り組む雇用対策協定を締結
 - ◆ 郡山清和救護園ほか4法人と災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定を締結
 - ◆ 建設交通部道路除染推進課を原子力災害総合対策課へ移管し統合
- ◆ 4月
 - ◆ 西田学園、富田西小児童クラブ開所
 - ◆ 「郡山市まちづくり基本指針」スタート
 - ◆ 「日本とEU都市間交流会合」が東京都で開催され、市長が本市の歴史や特色、エッセン市との産業分野での取り組みについて紹介
 - ◆ あいおいニッセイ同和損害保険(株)と、セーフコミュニティ活動やスポーツ振興、子育て支援などに協力して取り組むための包括連携協定を締結
- ◆ 5月
 - ◆ JR磐梯熱海駅前に複合施設「ほっとあたま(熱海多目的交流施設)」がオープン
 - ◆ 都道府県フットボールセンター推進事業として進めてきた熱海フットボールセンターがオープン
 - ◆ (株)東邦銀行と、公金の収納事務化を目的に、「とうほう公金収納トータルサービス」利用の覚書を締結
 - ◆ 学校法人国際総合学園FSGカレッジリーグと、市民向けアプリの開発や地元観光ツアーの企画など、地方創生や持続可能な郡山の実現に向けて協力して取り組むための包括連携協定を締結
- ◆ 6月
 - ◆ 広報こおりやまが、多言語変換・自動音声機能に対応した無料アプリでの配信をスタート
- ◆ 7月
 - ◆ 郡山市立美術館の改修工事が終了し、再オープン、郡山公会堂の構造補強工事が終了し、再オープン
 - ◆ 西日本を中心とした豪雨で甚大な被害を受けた被災地(倉敷市)へ、中核市応援協定などに基づき応援職員を派遣
 - ◆ 郡山しんきん開成山プール、オープン1周年記念イベントを開催
 - ◆ 郡山建設業者同友会と災害時における上下水道施設応急対策業務の支援に関する協定を締結
- ◆ 8月
 - ◆ 東日本倉庫(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
 - ◆ 再生可能エネルギー発電電力の可能性を調査するため、(株)エディソンと富久山・河内クリーンセンターで発電した余剰電力の活用などに関する再生可能エネルギー発電電力可能性調査協定を締結
 - ◆ 福島ファイヤーボンズを運営する福島スポーツエンタテインメント(株)とプロスポーツを活用した地域振興に関する協定を締結
- ◆ 9月
 - ◆ 市長が連携中枢都市宣言
 - ◆ 郡山しんきん開成山プールの利用者が10万人を突破
 - ◆ 中央公民館でブルメン市と姉妹都市締結30周年記念式典を開催、ブルメン市長夫妻がオランダ人技師ファン・ドールンに縁のある安積疏水土地改良区や開成小など、市内各地を訪問
 - ◆ 元スピードスケート選手の清水宏保さんによる講演会やスケート教室、ミッフィーステージショーなどのイベント「オランダ・フェースト」を開催
 - ◆ スマホアプリ(my daiz)を使用し、音声や文字入力により転入・転出届や住民票などの手続きをAIが回答する自動応答サービスを開始
- ◆ 10月
 - ◆ ハンガリーの水泳チームが、東京2020オリンピック競技大会に向けてトレーニングキャンプを実施
 - ◆ 市内34箇所のため池など(防災重点ため池)のハザードマップを公開
 - ◆ 本市とエーザイ(株)、郡山医師会、郡山歯科医師会、(一社)郡山薬剤師会との間で「認知症の方が安心して暮らせるまちづくり連携協定」を締結
- ◆ 11月
 - ◆ (株)福島高木、(株)瀧口製作所、(株)マキンス精工と西部第一工業団地の売買契約を締結
 - ◆ 多田野小でプログラミング教育を実施
 - ◆ 薬剤による健康被害を防止するため(一社)郡山薬剤師会と薬剤処方適正化に向けた連携協定を締結
 - ◆ 麓山地区の「日本聖公会郡山聖ペテロ聖パウロ教会聖堂」が国登録有形文化財に登録(市内では8件目)

県内初!セーフコミュニティ国際認証

郡山市は2014年11月のセーフコミュニティ取組宣言を皮切りに、本格的に地域ぐるみで活動を進め、2018年2月2日に県内初となる国際認証を取得しました。地域住民、団体・組織、行政など皆が力を合わせて安全・安心なまちづくりに継続して取り組んでいます。



『セーフコミュニティ国際認証式』

多くの方の行動により実現したセーフコミュニティ国際認証取得に、会場はよごごびに沸き、未来への誓いを新たにしたい一日となりました。



『セーフコミュニティ国際認証取得』

県内初となる認証を受け、活動の新たなスタートを切りました。



『市長の取組宣言』

2014年11月、市制施行90周年・合併50周年記念式典と併せ、セーフコミュニティ国際認証取得に向けた取組宣言をしました。

郡山市まちづくり基本指針

市民のみなさんが参加して策定を進めてきた、新しい市政運営の最上位指針「郡山市まちづくり基本指針」が4月からスタートしました。



誰もがいきいきと働けるまちへ
産業・仕事の未来



国内外の人が訪れたいまちへ
交流・観光の未来



将来を担う子どもたちをサポート
学び育む子どもたちの未来



元気に楽しくいきいきと暮らせる社会へ
誰もが地域で輝く未来



豊かで魅力溢れる生活環境の整備
暮らしやすいまちの未来



横断的取組
復興・創生の更なる推進

連携中枢都市宣言

こおりやま広域圏全体の経済をけん引し、住民が学び、働き、暮らし続けることができる圏域づくりを目指す意思を示すため、連携中枢都市宣言を行いました。



西田学園義務教育学校が開校

西田地区の小・中学校を統合した「西田学園」が2018年4月に開校しました。
充実した設備、明るく開放的な校舎で楽しい学校生活を過ごすことができます。



西田学園義務教育学校 施設のポイント

大型スクリーンや高音質のスピーカーを
完備した多目的ホール



木の温かみに包まれて
毎日を過ごすことができる普通教室



開放感のあるエントランスホール



『可動式の床を備え付けた屋内プール』



『太陽光発電パネルなどの再生
可能エネルギー設備を設置』



熱海多目的交流施設オープン



『熱海多目的交流施設ほっとあたま』

施設内には行政センターや観光物産館、JA支店があり、行政手続きや金融、地元農産物等の販売、農業相談などができます。



『熱海フットボールセンター』

1年中利用できる人工芝グラウンドには、616席の観覧席があるほか、更衣室を備えたクラブハウスが隣接しているので、試合や練習に便利です。



2018(平成30年)



『プロスポーツを活用した地域振興に関する連携協定締結』

2018年8月

バスケットボールによるスポーツ振興および競技人口を拡大するため、福島スポーツエンタテインメント(株)と連携協定を締結しました。



『デンソーエアリービーズ公開練習・バレーボール教室開催』

2018年8月

市とホームタウンパートナー協定を結ぶデンソーエアリービーズの公開練習が、宝来屋郡山総合体育館で行われました。



『ASAKAMA I887スタート』 / 2018年3月

本市ブランド米「あさか舞」のプロジェクト発表会が行われ、最高級品のブランド名やロゴデザインなどが披露されるとともに、生産者の決意表明が行われました。



『ブルメン市姉妹都市締結30周年』 / 2018年9月
奈良市や久留米市、鳥取市と並び、郡山市と姉妹都市を締結しているブルメン市。2018年ブルメン市との姉妹都市締結30周年を迎えました。



『オランダ・フェースト』 / 2018年9月
元スピードスケート選手の清水宏保さんによる講演会やスケート教室、ミッフィーステージショー・写真撮影など、オランダにちなんだイベントを開催しました。



『ハンガリー国水泳ナショナルチームトレーニングキャンプ開催』
2018年10月
本市で、東京2020オリンピック競技大会に向けたハンガリー国水泳チームのトレーニングキャンプが行われました。



あの日の記憶 vol.8

震災からの10年の歩みについて寄せられた記憶をご紹介します

「守られる存在」から『守る存在』に (30代/女性)

「東北・福島応援特別大会」として郡山で開催された日本最大級のまちおこしイベント「B-1グランプリ」に、地域の復興につながると信じて『郡山クリームボックス楽団』として出展したのがつい最近のようです。市民に愛されているクリームボックスを「楽都郡山でたのしく!」“食”を起点としたまちおこしを始めたのがきっかけでしたが、逆にたくさんの方から応援の言葉をいただき、困難なことがあってもみんなで力を合わせて乗り越えられる環境、「わたし」と「地域」の重なり場を見つけておく・築いておくことが大切なのだということに気付きました。また、10年間という時を経て感じるのは、自分が「守られる存在」から『守る存在』になったということです。『守る存在』になった私たちには、東日本大震災の脅威を知る者として、後世へ、震災の経験や防災についての教訓・知識をしっかりと伝承し、かつ、備え、守れる命を守っていく責任があると強く感じています。10年目となる2021年からは、“3.11”という日だけではなく、新たなスタートの日として、“3.12”という日も大切にしていけたら良いと思います。

東日本大震災の記憶 (10代/女性)

東日本大震災から10年。当時、私は3歳。そのときの記憶はほとんどない。日本で観測史上最大の地震を経験し、学んだことを私たちや震災を知らない次の世代に伝えていくことが大切だと思った。

水の備えを! (20代/女性)

東日本大震災後、断水があり、またお店も開いていなかった為、飲み水の確保に困りました。その経験から、水だけは備蓄しています。飲み水が確保されているだけでも安心感が違います。

地震のこと (10代/女性)

私はその時赤ちゃんだったので、地震のことは全然覚えていないけど、おばあちゃんたちの話を聞いてすごく怖いと思いました。またそんな大きな地震がきたらどうしようと思いました。そうなった時に、家族でバラバラになると大変なので、待ち合わせ場所を決めたいと思いました。